

令和7年度第1回市民力推進委員会 会議録

日 時 令和8年3月18日(水) 18:30~20:30

場 所 長崎市役所13階 中会議室

出席者(敬称略)

【委員長】山口純哉

【副委員長】江口忠宏

【委員】

岩本諭、上野美也子、梅川健治、下釜智、柿田多佳子、林田英昭、稗圃健史、平山智秀、松尾博之、松下隆、宮崎真奈美、吉田伸吾

【事務局】羽佐古潤二郎、宮本康宏、野副智子、川口育美、溝口紗代、富澤敏樹

【長崎市市民活動センター】出口亮太、関根志郎

次 第

議題1 令和8年度予定事業について

議題2 市民活動センターの令和7年度の実績及び
令和8年度の予定事業について

事務連絡等

令和7年度第1回 市民力推進委員会会議概要

日時 令和8年3月18日(水) 18:30~20:30

場所 長崎市役所13階 中会議室

出席者

市民力推進委員会：

山口純哉委員長、江口忠宏副委員長

岩本諭委員、上野美也子委員、梅川健治委員、下釜智委員、柿田多佳子委員、林田英昭委員、
稗圃健史委員、平山智秀委員、松尾博之委員、松下降委員、宮崎真奈美委員、吉田伸吾委員

事務局：羽佐古市民生活部長、宮本市民生活部理事、野副市民協働推進室長、川口係長、溝口、富澤

長崎市市民活動センター：出口統括、関根センター長

－ 会議概要 －

議題1 令和8年度予定事業について

議題2 市民活動センターの令和7年度の実績及び令和8年度の予定事業について

事務連絡等

会議次第に従い山口委員長が進行

—— 議題1 令和8年度予定事業について ——

【委員長】

議題1 令和8年度予定事業について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局による説明の後、委員から次のような質疑がなされた。

【委員】

制度の面では人材育成補助金制度の改正の最低催行人数の引き下げが柱になったと思うが、令和7年度から引き下げになっているのか。今年度、応募された団体の最低催行人数はどのくらいだったか。

【事務局】

令和7年度から引き下げになっている。今年度応募の催行人数としては30人ほどであった。申請様式の見直しについては以前に比べると書くやすくなった、わかりやすかったという声はいただいた。民間の補助金の方が使いやすいように見受けられる。自治体の補助金ならではの利点があればそれを推していくべきだと考える。

【委員】

最低催行人数を引き下げたからという理由で応募があったというわけではないことがわかった。コロナ禍以降、申請件数が下がっていることがわかる。厳しい意見かもしれないが、スタート、ジャンプ補助金については役目を終えたということも考えられる。

民間の補助金の方が使いやすいように見受けられる。自治体の補助金ならではの利点があればそれを推していくべきだと考える。

【事務局】

委員の皆様の意見を踏まえながら、見直しを図ってきた。公金を使っていることもあり、本補助金が運営補助ではなく、事業補助であることは崩せなかった。今年度については市以外の民間の補助についても調査してもらって、合同説明会を行った次第である。その結果、生の声を聴くことができ、使いづらい部分が見えてきた。今回は3回募集を行ったが、やはり年度内に事業完了しないといけなところから応募がなかった。令和8年度までは今のまま募集を行うが、年度途中で結果が見えてきた時点で今後の在り方を検討したい。

【委員】

この申請数の結果を見て見直そうというのは早計かと思う。もっと分析したり、市民力推進委員会で検討したりして、考えていくべき。合同説明会については周知が図られたという面で効果があったと思う。

【委員】

私たちの団体は令和6年に補助金を活用した。使い方は目的によると思う。実際、お金が欲しいだけなら、クラファンなど行った。なぜ市の補助金を活用したのかというと、1つは学生ボランティアの育成という側面があった。プレゼンなどを体験してほしかった。民間よりあえて手間がかかる側面があった。市ならではの利点をアピールすることが大事。自治体の補助金の利点は「長崎市の公式LINE」が活用できたこと。(公共の公告が利用できたこと)。地域で活躍したい、行政と連携が深まるという点はメリットである。公金が使われているということはやる側にも意識づいてほしい。あえて手間がかかる方が長い目で見たときに団体のためになる。

【委員】

ランタナの今後の役目は何かというのを考える。スタート、ジャンプ補助金の申請が少なくなってきたことで、市民協働推進室としての転換期に来ていると思う。どの補助金を使うのかは団体次第である。活動団体の拠点施設、いろんな団体が交流できる施設として、団体の活動を底支えできる役目が必要なのは。

【委員】

市民活動支援補助金の生の声のでプラスの声はなかったのか。支援する立場としては「手間がかかって当たり前」「成果を求められて当たり前」だと思う。それでもプラスが出ていなかったのか。聞いてなかったのかで変わる。今まで活用してきた団体がこれだけあるなら、プラスの意見も聞き取って、メリットとして押し出してもいいのでは。

【委員】

動画の部分について。動画は9団体しかとらないが、連携を望んでいるのは170のうちの7割もある。行政が作成するだけでなく、団体から動画を提供してもらって、行政で流すのはどうか。小さな出会いの場ができていなかったことが不満である。市民力推進委員会も年度末だけでなく、上半期下半期くらいは開催してほしい。塾事業がなにかの形で残ればいいなと思っている。

【委員】

提案型協働事業について KPI（数値目標）はどう設定しているのか。最後の支援・協力依頼の部分が短い。共感だけではなく、連携のメリットも押しださないと連携してくれない。作っただけで終わるのがもったいない。

【副委員長】

熱量のある団体に寄り添ってほしい。補助金については申請が多ければいいというわけでもないと思う。団体の性格を掘り下げた方がいいのではないのか。

【委員長】

動画については、What と How to で why がない。なぜ事業をやっているのかが伝わらないと感じる。皆さんの意見を聞いていると、この委員会が参画と協働の場になっていない。事務局、ランタナと委員会が対等な立場で協働しながらつくっていくというのを来年度やっていられないかと思えないのかと思う。

—— 議題 2 市民活動センターの令和 7 年度の実績及び令和 8 年度の予定事業について ——

【委員長】

議題 2 市民活動センターの令和 7 年度の実績及び令和 8 年度の予定事業について 事務局から説明願いたい。

事務局報告の後、委員から次のような質疑がなされた。

【委員】

よくやっというらっしゃると思う。市内、市外関わらず交流していることを評価。団体立ち上げの流行りなどはあるか。

【センター長】

子供に関する相談が多かった。県の子どもの施策があったことが原因かと考えている。

【委員】

補助金だけでなく、拠点としての機能もランタナは担っている。一方で実際に活動する場所の提供（学校など）、市が保有している施設の有効活用が図られるといいなと思っている。ジャンプ補助金使ってよかったところは「こどもたちが企画に携わったことで、こどもたちがまたやりたいという気持ちになった」というところ。もっとこどもたちが主体となれるような場が作るといいのではないか。市民力推進委員会が出た意見をもっと具体的にできる場があればいいと思う。補助金についてはうまく残していければと思う。

【副委員長】

4月から長崎市の施設の使用料があがるが、ランタナの利用料金はどうなるのか。

【事務局】

ランタナも値上げする。コピー機なども値上げするが、他施設と差別化して比較的安価な金額にした。会議室も市民活動団体については半額減免にした。

【副委員長】

ランタナはみんなが使いやすいようにしていただいてありがたい。会議室も狭いながらも人的支援やイベント補助もスタッフがしてくれるとありがたいのでは。

【委員】

県は会議室が無料、機材の貸出やWebのサポートも行っている。県と市、それぞれ使い分けができれば。団体数、相談数が減少している要因は何か。

【センター長】

今年度はピース文化祭があったことが利用者数の減少につながった。相談については相談員が4人から3人に減ったことが要因。

【委員】

県も相談件数が減っているけど、要因がわからない。季節的な要因はあったりするのか。(県は暑いと減る)

【センター長】

ランタナは団体がイベントをする期間(10月・11月)、寒い時期は減る。逆にイベントに向かう時期4月~7月、来年度の相談がある時期(3月)が忙しい。

【委員】

県は車が止められる、機材も無料なのが良い。ランタナは車が止めれない。使い分けが大事かなと考えている。

【委員】

補助金の採択が減っているということは、新規団体が減っているのか、傾向が知りたい。地域は地コミの補助金があるので減っているのかもしれない。市民活動団体にならなくてもいいのかも。高校生は探求学習で市民活動への機運が高まっているのかも。色々分析したいなど思っている。提案型協働事業も申請件数が少ない。これは協働の最上位だと思っている。仕組み自体はいい仕組みだと思っているが、今後どうしたいのか協議したい。提案型協働事業の今年度の方針があれば聞きたい。

【事務局】

提案型協働事業については制度開始から、平均2件くらい。協働の相手が市と団体になっている。今年度途中から官民連携総合窓口が開設され、我々としては仕組みが似ており、市民活動団体と様々な主体との連携も見据えながら、新年度から提案型協働事業の仕組みを変えたいと考えている。

【委員】

官民連携との棲み分けや連携が大事ななと思っている。伝習所基金の活用はどう考えているのか。今後の扱いについて聞きたい。

【事務局】

長崎伝習所基金は10億程度ある。議会からも活用については意見がなされていた。来年度予算からは活用を拡充した。今までの倍以上の予算をつぎ込むようにしている。

【委員】

色々な数字をみると市民力や協働は衰退しているように見えるが、こういったものはやめるべきではないと思っている。今後については市民力推進委員としても検討したい。

【委員】

市民力推進委員会は長崎のことが好きな方ばかりなので、委員の皆さん知恵を紡ぐ必要があると考えている。

【委員】

地コミは補助金をもらえて、そこから事業が行える。市民活動団体のことを知ろうとしなかったところが自分にあった。地コミと市民活動団体のマッチングも図っていきたい。

【委員】

ランタナさんはよく仕事をされていると思うが、その評価・待遇が低いと思っている。改善を検討していただきたい。

【委員長】

市民力推進委員会が主体的に動けるようになったらいいと思う。そもそも行政全体がどうなっているのか、行政の役割分担がわからない。そういうところの全体像のデザインも必要。どういった市民活動団体があるのか、熱量の高いところはどこなのか分からない。どういう風につなげる仕組みをつくるのか。市民力とはいったい何か、市民力推進委員会の役割は何かということを調査やヒアリングすることで委員の皆さんも市民力を自分事化すると思う。そういった形で運営できないか、事務局に検討をお願いしている。

【事務局】

事務局からの事務連絡をもって委員会を終了。